

か しょう じ 迦 葉 寺

迦葉寺は、東向寺の五世であった道眞和尚が元禄五年（一六九二）に開いたといわれています。本像は、桧材で造られており、寄木造りの構造です。彩色は、近年新たに塗られています。頭の上部に盛り上がった肉髻にっけいの形や、顔立ち等は、わが国の通常の仏像のとおりですが、おなかに裳の結び目を掘りだしているところは、長崎・天草の如来像にみられる形式です。本像が造られたのは、江戸時代後期以降と思われるが、迦葉寺の要望によって仏師がこのような裳の形を掘りだしたと想像されます。江戸時代後期から近代にかけても伝統の形式が引き継がれていたことがわかります。



